

エントリー学校名：佐賀県 嬉野市立吉田小学校

活動名：

校内研修の日常化 ～相互参観・交換授業で授業力アップ～

解決すべき課題

- ・学力面において、高い成果の学級とそうでない学級が混在している。
- ・研究授業と普通の授業では、授業計画や教材の準備等に大きな差がある。
- ・校内で統一した基本的指導過程が設けられているが、実践意識に差がある。
- ・自主・向上性が低く、やらされ感のなかで教育活動に取り組んでいる教員が見られる。

目標・方針：

教員間で自主的に「授業づくり」を学び合う意識を高め、日常的に授業改善や工夫を行う。

- ・授業展開のうまい同僚の実践を参観して、授業実践力向上の参考にする。
- ・授業を同僚に参観してもらい、修正点を指摘してもらうなどして授業力の向上に努める。
- ・教員間の教育実践に対する意識と取り組みの温度差を縮める。

活動内容：

- 1 **研究授業**・・・年間2時間以上、全ての学級担任が研究授業を行う。（事前に模擬授業を、事後には研究協議の時間を設けるが、指導案は簡略化する。）
- 2 **「乗り入れ」授業**・・・低、中、高学年のペア学年の学級担任で相談し、自分が受け持つ教科の一部の単元を互いに入れ替えて授業を行う。（年間10時間程度、1時間単位でよい。）
- 3 **「お見合い」授業**・・・担当する授業が入っていない時間枠に他の学級担任等に交渉し、他の教職員の指導する授業を参観し合う。（週1時間程度、ポイントをもった短時間の参観でもよい。）

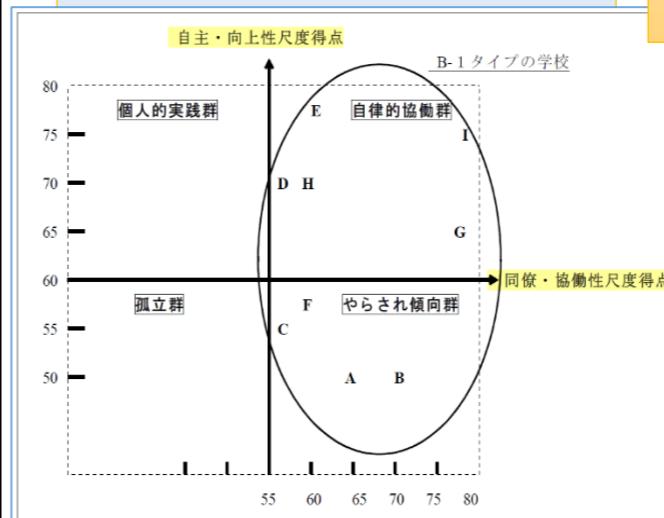
活動の成果：

- 研究授業だけでなく、普段から校内研究のテーマや視点を意識した授業が実践されるようになった。
- 日常的に教材分析や授業準備をもとにした計画的な板書や発問による授業実践の割合が増えた。
- 参観する時間を確保するために管理職が各学級に入る機会が増え、学級や児童の実態把握、授業づくり等への具体的な助言、相談の機会が増えた。

アピールポイント（アイデアや工夫）

- 教員の意識の状態を捉えるために「学校管理職が進める教員組織づくり」（早稲田大学教授 河村茂雄著）を参考図書として活用した。
- 年度当初の学級担任の配置において、ベテランと若手教員を組み合わせることで、教員間で学び合う雰囲気醸成しやすいように配慮した。
- 「授業づくりシート」や「学習用語一覧」を活用することで、指導のポイントを明確にした授業づくりや意見交換ができるようにした。
- 新型コロナ禍で教育センターの研修会や研究発表会等が中止されるなか、校内において研修とその実践の機会が保証できた。

課題：教員組織所属意識尺度の結果



授業の相談や情報交換のための全学級の**週案掲示**



授業実践のポイントを明示した「**授業づくりシート**」

項目	内容
① 具体的な観点	・めあてや課題が、児童にとって取り組む必然性のあるものになっている。 ○めあてを板書し、児童に読ませたり書かせたりしている。 ○めあてが、終末で自己評価できるものになっている。
② 終末までの方向性	○1単位時間の活動の流れを具体的に示している。 ○結果の予想や解決方法の見通しをもたせている。 ○児童が考える時間を確保している。
③ 考えを引き出す	○自分の考えを持たせるために、ヒントカードやキーワードを示すなどの手立てがある。 ○児童に、考えたことを書かしている。 ○児童の思考が深まるような手立てがある。
④ 深い学び	・条件（構文、字数、キーワード等）や、学習用語を用いる活動がある。 ・文章や資料等を基に理由を説明したり、考えや意見を書いたりする活動がある。 ・「比べる」「関連付ける」などの方法で思考を深める場がある。
⑤ 対話的な学び	○他の人と考えを ○自分の考えを ○交換のための具
⑥ 友だちタイムの目的	○児童の発言をつ ○互いの考
⑦ まとめ	○学習のま ○学習用語
⑧ 振り返り	○児童に自 ○本時の有 ○時間内に ○板書が、
⑨ 視覚的支援	・板書時の ・IC T教
⑩ 習熟の度に応じた指導	・児童の質 ・「C 努
授業形態	・吉田メソ ・付けたい ・相違内容 ・教師の発

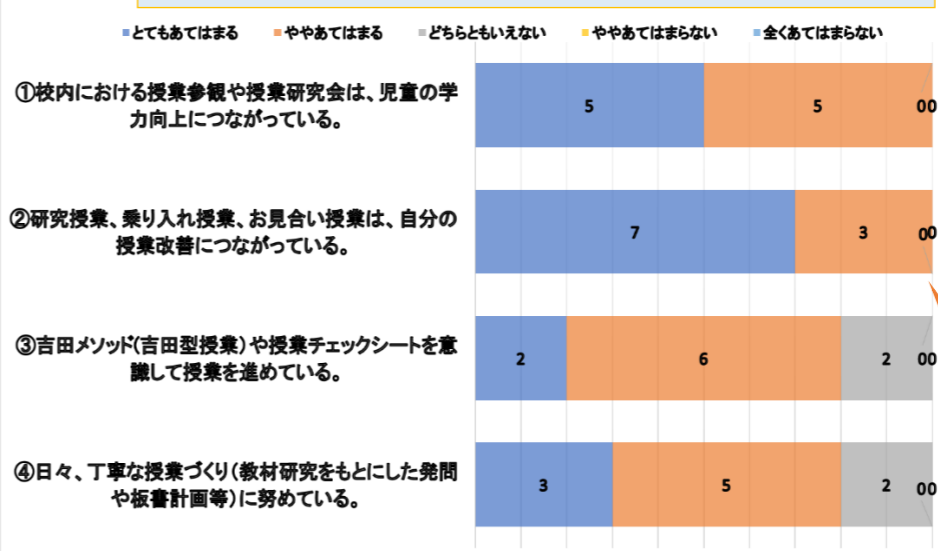
学習の系統性をもたせる「**学習用語一覧**」

学年	教材名	活用させたい学習用語
1上	どうやってみえるのかな	まとも
1下	いろいろなふね	せつめいの文しよ
2上	たんぼぼ	一つ目は…二つ目は…順序 読みき
2下	ふろしきはどんなぬの	読み比べる 順序 読みき 書き出し 主題 述語
3上	「ほけんだより」を讀みくらべよう	読み比べる 順序 オノマトペ 比喩 挿絵 見出し 読み出し
3下	もうどうだの別線	読み比べる 順序 図表 説明の仕方 工夫 書き
4上	ヤドカリとインゲンチャウ	読み比べる 順序 図表 説明の仕方 工夫 書き
4下	くらしの中の和と洋	読み比べる 順序 図表 説明の仕方 工夫 書き

- 1 研究授業
- 2 「乗り入れ」授業
- 3 「お見合い」授業



活動の成果：職員意識調査アンケート（教員数10名）



本校職員の声

「お見合い授業」は、研究授業ではない普通の授業が見られ参考になった。もっと参観回数を増やしたい。

低学年では、国語や生活科で授業の交流ができ、お互いの児童の様子も分かって、有効だった。